

結果の概要

1 出生数は減少

出生数は81万1622人で、前年の84万835人より2万9213人減少し、明治32年の人口動態調査開始以来最少となった。出生率(人口千対)は6.6で前年の6.8より低下し、合計特殊出生率は1.30で前年の1.33より低下した。(第1表)

母の年齢(5歳階級)別にみると、出生数は40～44歳の階級では前年より増加したが、その他の階級では減少した。合計特殊出生率の内訳は34歳以下の各階級で前年より低下したが、35歳以上の各階級では上昇した。なお、出生数及び合計特殊出生率の内訳ともに、30～34歳の階級が最も高くなっている。(第4表(1)、第5表(1))

出生順位別にみると、出生数及び合計特殊出生率の内訳ともに、第3子以上で前年より上昇した(第4表(2)、第5表(2))。

母の年齢(5歳階級)別と出生順位別を併せてみると、合計特殊出生率の内訳は15～24歳の各階級ではいずれの出生順位についても前年より低下した(第5表(3))。

2 死亡数は増加

死亡数は143万9856人で、前年の137万2755人より6万7101人増加し、戦後最多となった。死亡率(人口千対)は11.7で前年の11.1より上昇した。(第1表)

死因別にみると、悪性新生物<腫瘍>の死亡数は38万1505人(死亡総数に占める割合は26.5%)、死亡率(人口10万対)は310.7であり、前年と同様死因順位の第1位となった。なお、第2位は心疾患(同14.9%、174.9)、第3位は老衰(同10.6%、123.8)となった。(第6表)

なお、新型コロナウイルス感染症の死亡数は、1万6766人となっている。(第6表(参考))

年齢調整死亡率(人口千対)は男13.6、女7.4で、男女とも前年の男13.3、女7.2より上昇した(第1表)。

3 自然増減数は減少

出生数と死亡数の差である自然増減数は△62万8234人で、前年の△53万1920人より9万6314人減少している。

また、自然増減率(人口千対)は△5.1で前年の△4.3より低下し、実数・率ともに15年連続で減少・低下した。(第1表、第2表-1、第2表-2)

4 死産数は減少

死産数は1万6277胎で、前年の1万7278胎より1001胎減少し、死産率(出産(出生+死産)千対)は19.7で、前年の20.1より低下した(第1表)。

5 婚姻件数は減少

婚姻件数は50万1138組で、前年の52万5507組より2万4369組減少し、戦後最少となった。婚姻率(人口千対)は4.1で前年の4.3より低下した(第1表)。

6 離婚件数は減少

離婚件数は18万4384組で、前年の19万3253組より8869組減少し、離婚率(人口千対)は1.50で前年の1.57より低下した(第1表)。